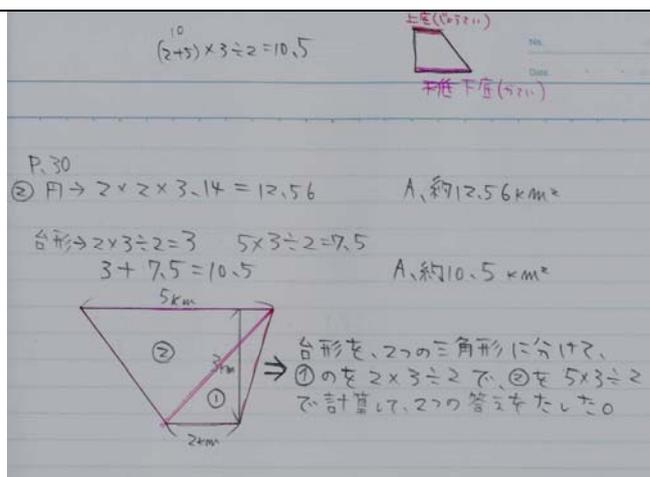


研究実践協力校 川口町立川口小学校の取組

学校所在地・電話番号	〒949-7513 北魚沼郡川口町大字西川口1149番地 TEL (0258) 89-2128		
校長氏名	横山 治隆	児童数	197名

改善事業の受け止め			
<p>当校では児童に分かる授業を目指し、TT体制による個別指導や授業改善を行っている。また、これまでNRT標準学力検査や全県学力テストなどの結果から、児童は基礎的・基本的事項についておおむね理解できていると判断している。</p> <p>しかし今回の学習指導改善調査の実施により、「どうしてそうなると思ったのか」理由を記述するような問題の無答・誤答率が高く、児童の思考力・表現力を育てる指導が必要であることが分かった。まずは職員研修で改善の方策を話し合い、日々の授業改善と学校体制に役立てていこうと考えた。</p>			
取組の概要			
<p>(1) 職員研修で学習指導改善調査結果を分析し、子どもの実態をとらえる。</p> <p>(2) 日々の授業改善に役立て、実践する。</p> <p>(3) 学校体制でできることを考え、実践する。</p>			
具体的な実践（取組）内容			
<p>(1) 職員研修による学習指導改善調査結果の分析</p> <p>職員研修で学習指導改善調査結果を次のように分析した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語 <p>低・中学年では、教科書教材の音読がすらすらとできない児童がいる。そのため理解も遅れがちになる。国語授業での指導はもちろんであるが、読書の機会を取り入れ、言語環境を豊かにすることが必要である。</p> <p>また中・高学年では、必要な資料を整理して、組み立てメモをもとに自分の考えを記述することに慣れていなかったり、記述がパターン化しすぎてどんな文でも同じパターンで書いたりする児童がいる。また、意見文を書く経験が少ないという事実も明らかになった。国語、総合、その他の教科と関連させて、自分の意見を書いたり話し合ったりする機会をもつ必要がある。</p> ・ 算数 <p>数系列、数概念の理解が困難で、個別指導を要する児童がいる。また計算では、問題はスラスラ解くことができるが、解き方を正しい算数用語を用いて説明することができない子どもが多くいる。具体的操作活動を取り入れたたり、自分の考えを図や言葉で表現する機会を多く設けたりするとともに、算数用語を使う頻度を増やし、慣れさせていくことが必要である。</p> <p>(2) 授業改善の取組</p> <p>算数では、自分の考えを言葉や図を使って分かりやすく書くノート指導に力を入れている。また自分の書いたものを隣の人に伝え合うペアワークを取り入れ、相手に分かりやすく説明する学習も取り入れた。同時に全体を前にした説明では、図などの具体物を使い、聞き手によく分かるようにしたりしている。</p>			

- 6 学年算数「およその面積」の授業より湖のおよその面積を求めるのに、円と台形それぞれの形に見立てて、どちらが実際の面積に近いかを考える問題で、A子は台形を2つの三角形に分けて面積を求める方法を考えた。式を書くだけでなく自分の考えを図や言葉で書き表すことで、考えが整理され、他の人が見ても答えを導き出す過程がよく分かる。A子はその後、みんなの前でも図を描いて分かりやすく説明することができた。



自分の考えを言葉で表すことを、初めから無理だと思ってなかなか取り組めない子どもや言葉が思いつかず書けない子どもがいる。そういう子どもには、一緒に考えたり励ましたりしている。また友達の書いた考えを真似て書き、書き方を覚えるようにしている。言葉や図で説明したり考え方をノートに書いたりすることは時間がかかるが、継続していくことで子どもたちに着実に力がついている。

また自分の考えを書く力は、算数の教科だけではなく全ての教科において意識して取り組むことで高められる。それを職員全体が共通理解して取り組む必要がある。

(3) 学校体制の取組

- 「話す・聞く・書く」ことの学習規律の設定

当校では、学習規律を伝え合う力を育てる基礎として考え、次のように設定している。また「話す」ことについては話型を学級に掲示し、子どもたちが意識して使うことができるようにしている。

1 1月の生活目標では「相手の話をよく聞き、自分の考えをしっかりと伝えよう」とし、学習規律を改めて見直す機会を設けた。学年ごとに学習チェックカードを用いて自分の学習態度についてふり返ったり学級のめあてを立てて意識させたりする取組を行った。

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
話 す	みんなに聞こえる声で話す 順序を考えて話す	適切な声の大きさで、最後まできちんと話す 自分の考えを、筋道立てて話す	目的や場に応じて、話形を使いながら話す 自分の立場や考えをはっきりさせながら話す
聞 く	話す人を見て聞く 大事なことを落とさないように聞く	話す人を見て、最後まで聞く 話の中心に気をつけて聞く	話す人を見て、うなずきながら聞く 相手の言いたいことを考えながら聞く
書 く	黒板の字を正しく書き写す 順序に気をつけて書く	学習に応じて、見やすく書く 考えがわかるように整理して書く	自分の考えと事柄を整理して書く 考えがよく伝わるように工夫して書く

4 学年では、生活目標チェックカードで毎日のふり返りを行った。「自分の考えを筋道立てて話す」ことは、発表に自信がもてないのか肯定的な評価をする子どもが少ない。なかには発表が苦手だからといって、発表していない子どももいる。一人ひとりの発表の機会を増やし、順序を表す言葉を入れて話したり、話すことをノートにまとめたりする指導も必要である。また全体の前での発表だけではなく、ペアやグループで自分の考えを発表し合うことで、話しやすい雰囲気を作ることも効果的であると思われる。子どもの姿を見とった細かな指導により、子どもが自信をもって発表することができるようにしたい。

- ・ 私の主張大会での意見文の発表

当校では各学期に「私の主張大会」として生活作文や意見文を発表する機会を設けている。これまでは生活作文が多かったのだが、体験を通して感じた自分の考えを取り入れたり、テーマに沿って資料を集め、それについての自分の考えを述べたりする意見文を中心に書くよう指導した。

その結果中学年では自分の体験から感じたことを豊かな言葉で表現することができるようになった。A子のごみ処理場の見学で見たことや作業の様子を話し、これから自分が気をつけていきたいことを意見としてまとめた。また高学年ではディベートを取り入れ、資料と自分の考えを関係づけながら文章を構成して発表した。

発表者は自分の原稿を暗誦して堂々と発表する姿が見られ、参観した保護者からもたくさんの拍手をいただいた。

- ・ 全校テストに記述問題を取り入れる

学期末に全校国語算数テストを行っており、算数では数学的な考え方に関する記述問題を1～2問程度入れている。授業でも自分の考えを記述する場面を取り入れるよう努力しているが、子どもたちが自分の考えを書くことに慣れていないという実態があるからである。

< 4 学年 問題例 >

下の計算はまちがっています。まちがえているわけを書きましょう。

$$\begin{array}{r} 1 \\ 4 \overline{) 94} \\ \underline{4} \\ 5 \end{array}$$

学年ごとにどのような問題を出し、どのような誤答があったのかを算数部に報告し、実態をつかみ、今後の指導に役立てるようにしている。

成果と課題

職員研修で話し合うことで、職員一人ひとりの意識が変わり、授業その他の教育活動全体で「思考力・表現力を育てる取組をしよう」と考えるようになったことが成果の一つとして挙げられる。その結果、子どもたちも少しずつではあるが、自分の考えを表現することができるようになってきている。

学習指導改善の結果は第4学年以上ではあるが、学校全体として1学年から取組を行っていかねばならない。低学年としては、原稿用紙の使い方に慣れたり、具体物を操作しながら自分の考えを説明したりすることができるように、発達段階に沿った取組を行っている。今後も全校体制でこの取組を継続していきたい。